

花火は「安全に」遊びましょう

夏の風物詩「花火」。ルールを守って遊べば楽しいものですが、使い方を誤ると、火災や事故につながるおそれもあります。

安全な遊び方をもう一度確認してから遊びましょう。

花火を安全に遊ぶポイント

- ◎ 風が強いときは花火をしない
- ◎ 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- ◎ 大人と一緒に遊ぶ
- ◎ 説明書の注意事項を必ず守る
- ◎ 水バケツを用意し、遊び終わった花火は水につける



火災になった事例



空き地で花火をしていたところ、こどもが遊んでいた手持ち花火の火花が近くの枯れ草に燃え移り、火災が発生しました。枯れ草に燃え移った火は、急速に燃え広がり、けが人はなかったものの、広い範囲を焼く火災となりました。

『火遊び』に注意しましょう

こどもの火遊びによる火災は、大人がいない時に発生することが多いため、発見が遅れ、火災が大きくなったり、こどもがけがをしたりする場合があります。

大人が注意し、火遊びによる火災を防ぎましょう。

- こどもだけを残して外出しない
- ライターやマッチをこどもの手の届くところに置かない
- こどもだけで火を使わせない
- 火災の恐ろしさ・正しい火の使い方についてきちんと教育する



水辺の事故に注意しましょう

本格的な夏の到来に向けて、海、湖や川辺などに出かける機会が多くなることと思います。

水の事故は、重大な事故となるケースが多く、例年全国各地で尊い命が失われています。

事故を未然に防ぎ、大切な命を守るため、十分注意しましょう。



水辺の事故を防ぐポイント

- ◎ 危険な場所には近づかない
- ◎ こどもだけで遊ばせない
- ◎ 体調が悪いとき、お酒を飲んだときは水に入らない
- ◎ 釣りやボートに乗るときはライフジャケットを着用する
- ◎ 気象状況をチェックする

泳いで助けに行くのは危険です

溺れている人を見つけたとき、泳いで助けに行くことは、自分も溺れてしまうおそれがあり、危険です。

119番通報し、ペットボトルなどの浮くものを投げ入れたり、棒を差し出したりするなど、水に入らない方法での救助を試みましょう。

また、救助した人に呼吸がない場合には、すぐに心肺蘇生をしましょう。



台風・大雨に備えましょう

台風の到来・大雨の多い時季になりました。
近年、全国各地で水害や土砂災害などによる
大きな被害が発生しています。

被害を少なくするため、何をすればよいのか
事前に確認し、もしもの時にすぐに
行動できるようにしましょう。



8.5水害の様相【郡山市(1986年)】

台風・大雨によるおもな災害

水害

大雨により、河川が増水したり、側溝などの排水路があふれたりすることで、建物の浸水や道路の冠水などの被害を及ぼします。



避難する時の注意点

- ◎ 火の元を確認してから避難する
- ◎ 動きやすい服装で避難する
- ◎ 川や橋の近くは通らない
- ◎ 棒などで足元を確認しながら避難する



土砂災害

山の斜面や渓流沿いなどで土石流やがけ崩れなどが発生し、崩れた土や石などが急激に流れ込んだり、斜面が崩れたりすることで被害を及ぼします。



こんな時は注意

- ◎ 地鳴り・山鳴りがする
- ◎ 川や井戸などの水が濁る
- ◎ 崖や斜面から水が噴き出る
- ◎ 崖や地面にひび割れ、陥没が発生する
- ◎ 雨が続けているのに川の水位が下がる

台風・大雨への備え

災害に備えて話し合う



家族みんなで避難場所・避難経路などを確認しましょう。

非常用持出袋を準備する



水や非常食などの避難先で必要なものを準備しておきましょう。

気象情報をチェックする



台風や大雨に関する情報をこまめにチェックしましょう。

水はけを良くする



まわりの側溝を清掃し、浸水などの危険を少なくしましょう。

屋外のものを整理する



風と飛ばされそうなものは、固定するか、屋内にしまいましょう。

川には近づかない **注意**



増水した川に近づくのは危険ですので、絶対にやめましょう。